



アムダのスタッフに義援金を渡すアチャリヤさん（左から2人目、岡山市北区伊福町で）

ネパール支援の恩返し

県内互助会 熊本へ義援金

県内在住のネパール人をつくる「岡山ネパールソサエティ」が、熊本地震の義援金として集めた9万998円を国際医療NGO「AMDA（アムダ）」（岡山市）に寄付した。昨年4月に起きたネパール地震の後、日本からの支援に感謝の意を表して募金活動をしてきた。義援金はアムダを通じて、被災地の医療支援に役立てられる。

「岡山ネパールソサエティ」は県内のネパール人が互いに助け合えるようにと今年1月に結成され、現在40人が所属している。メン

バーは5月にJR岡山駅付近で街頭募金をしたり、ネパール料理店に募金箱を置いたりして義援金を集めた。

同団体代表のアチャリヤ・プレム・プラサドさん（38）ら3人が岡山市北区のアムダ本部を訪れ、募金箱を担当者に手渡し、「（支援活動は）今回だけでなく今後も続けたい」と語った。アムダ理事・難波妙さん（52）は「被災地では地震のことを忘れられてしまうのではないかとこの不安があり、今回の支援は本当にありがたい」と話した。